

校 園 名：山口大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒75-0070 山口市白石3丁目1-2

電話番号：083-933-5960

記載日： H28年5月20日

記載者：中村万紀子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

【教育目標】



【めざす子ども像】

- ・友達と心を通わせて遊ぶ子ども
- ・いろいろなことに興味をもち考える子ども
- ・伸び伸びと元気に生活する子ども



【保育方針】

常に子どもを中心に置き、健やかな成長を育み、環境による教育を大切にする
共に育つ～子どもと親と保育者と～「いっしょに子育て」の精神で保育に向き合う

本園は、常緑樹・広葉樹・実のなる木と、様々な木々に囲まれた中に園舎がある。恵まれた自然環境を活かした『森のようちえん構想』のもと、50年の年月を経て、現在の環境に至る。

遊びを通して、身体を動かし、イメージを膨らませながら、具体的直接的な体験を積み重ねることを大事にしている。

「個の安定と自立」・「人とのかかわり」・「環境とのかかわり」の**3視点カリキュラム**を編成し、子どもの育ちに見通しをもち、日々の保育を振り返ることを通して、一貫性をもった適切な援助に努めている。

保護者の保育参加は30年近い歴史があり、幼児理解、育児の楽しさを共有し『もうひとつの子育て支援』として、位置付けている。



貴校の卒業生の活躍状況について：

- ・追跡調査：実施していない
- ・把握はしていないが、卒園児が保護者となったり、進学や就職、親となって園を訪ねてきたりするケースが増えてきている

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ・追跡調査：実施していない
- ・公立学校園の中核的な教員、或いは管理職として活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) 自発的な遊びを促す環境の工夫の提供

○オープンテラスキッチン

(H26年度 研究紀要35)

四季を通して収穫している野菜等を、年長児の日常的な保育の中で、継続して料理を楽しむことのできる場を、オープンテラスキッチンとして位置付けている。

様々な野菜等への興味や食への関心を深め、料理を進める際の様々な役割が、友達同士或いはグループ活動による協同的な学びの場となっている。年少児年中児へ振る舞い多くの人から喜んでもらえることで、さらに達成感や充実感、有用感を味わう機会にもなっている。



○共有空間（テラスや通路）の改善

身近な材料（すのこ等）を活用したカウンターフェンス、カウンターテーブル制作

園内の共有空間を魅力的な場にしていくために、教師同士が意識して思いを交わし、全員で作り検証していくことで、共通理解や意識化、チーム保育力の向上につながる。



○自ら身体を動かし運動的な遊びを楽しむ環境づくり

(H23年度 研究紀要33)

幼児の運動機能の低下が今日的課題となっている中、園庭環境の工夫をし、思わず身体を動かして遊びたくなるような魅力的な場づくりを研究として取り上げた。

各年齢の発達の特長、遊び方、動線（ポイントの3要素として入口、出口、勝手口）を考慮した環境づくりを実施している。



(2) 互惠性を大切にした幼・小・中 交流

幼小交流…平成14年に研究開発指定研究を受けた機に、年長児と小学1年生と2年生との交流をカリキュラムに位置付け、滑らかな接続に向けて継続的に取り組んでいる。

幼中交流…園行事クリスマス会での弦楽合奏部の演奏、3年生の保育参加を継続的に実施。



(3) PTA活動 教え合い助け合い、できる時にできる形で、参加しやすいPTA

子どもたちの園生活をサポートする活動を通して、保護者同士のつながりを広げ、園と子育て共同体の意識で、子どもたちの笑顔のため、豊かな園生活のために取り組んでいただいている。



<洋裁ボランティア>

人形の服の修理やごっこに役立つグッズの制作等

<読み聞かせ>

週1回程度、おべんとう後の時間を利用（絵本コーナー）

<うんどうかい>

PTA執行部による恒例の応援パフォーマンス

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えていますか：

① 幼稚園教育要領に基づき、子どもが主体の遊びを中心にした保育の実際を、地域の幼稚園、保育所、こども園、幼児教育機関に公開保育や事例を通して見ていただき、「幼児期の教育」「保育の質の向上」を、地域と共に考えていく研修の機会となる存在であると考えている。

② 公開研究会を年1回開催しているが、県内外から多くの保育者が集い、様々な園同士が語り合うことのできる場でもある。地域の園とつながり、「附属だからできる」のではなく、それぞれの地域の園で役立つ保育研究を提案し、保育計画立案の際のねらい、内容、環境構成や援助等、教育課程作成のモデルとして、活かせる発信元であると考えている。



③ 隣接している小学校との連携をさらに深め、子どもの育ちを軸においた接続期のあり方を提示すると共に、附属学校園として、幼から小、小から中へと、一貫した教育の構想に向けてのモデルを示していくことを大いに期待されている。

まずは、小学校教育との滑らかな接続を図るための、子どもの発達をつなげる幼小接続のあり方を示していく存在であると考えている。



山口県の小学校から1年間、公立幼稚園や私立に派遣される長期研修生の研修の場として、県教育委員会が本園研究会の参加を位置づけている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

① 教員養成の充実発展

将来期待される教員を育てていくために、学部とともに連携を図り、実習校として受け入れる基本実習期間に限らず、現場で学ぶ機会を設けている。さらにインターンシップ制度を導入することで、社会にでた際に役立つ様々な体験を積み重ねることに貢献している。



② 地域の幼児教育に携わる現職教員の研修の場

現在は山口市立幼稚園との交流派遣研修を実施している。1週間の短期と1年間の長期とが実施されている。派遣先の園で、日常の保育に保育者として勤務しながら、保育について語り合い、教材研究等をしながら保育力の向上に活かしている。

子ども子育て支援新制度本格実施となり、「教育の質、教員の質」の向上が盛んに問われる中で、先進的幼児教育の実施、地域の幼児教育の発展に資する研究、教員の研修の場として機能し役割を果たしていく使命が、附属学校としてあると考えている。